

平成 29 年 6 月 15 日現在

機関番号：33403

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2012～2016

課題番号：24730447

研究課題名(和文)「記憶の場」の観光地化とポピュラー文化が生み出す歴史意識の変容に関する実証的研究

研究課題名(英文)An empirical study on the change of historical consciousness created by popular culture, and on the touristization of "Site of memory".

研究代表者

山中 千恵(YAMANAKA, CHIE)

仁愛大学・人間学部・准教授

研究者番号：90397779

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、ポピュラー・コンテンツ目的の観光行動と「負の記憶」を留める場所の観光開発の間の力学に注目し、グローバル時代の集合的記憶の重層的な構築過程を社会学的視点から明らかにすることにあった。各国・地域における調査を通じて、ポピュラー文化の非場所的な性質が逆にローカルな「記憶」を掘り起こしていくプラットフォームとなりうること、しかし「歴史」を伝達する手段としてコンテンツが作成されるとき、受容される側のポピュラー文化理解の文脈において再解釈されてしまう可能性があること、「負の記憶」の在り方が複数の集団に争われているような場合、ポピュラー文化の娯楽性に回収される可能性があることが分かった。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this research is to clarify, from a sociological perspective, the multilayered structuring process of collective memories in the global era, focused on the dynamics between tourism behavior for popular content purposes, and tourism development in places where we keep 'negative memory'. Through surveys in several countries and regions, we found that the 'non place' nature of popular culture can be a platform to unlock local 'memory', but when content is created as a means of communicating 'history', it can be reinterpreted in the context of popular culture by the receiver of the message; moreover, when 'negative memory' is contested by several groups, it is possible for it to be absorbed by the entertainment property of popular culture.

研究分野：社会学

キーワード：ポピュラー文化 ナショナリズム 記憶 観光 東アジア メディア グローバル化

### 1. 研究開始当初の背景

申請者は社会学と地域研究との境界を研究領域とし、日本文化の海外受容や韓流現象など、ポピュラー文化の双方向な越境と受容を、ナショナリズムや歴史意識との関係から考察する実証的研究。マンガやアニメ、ドラマを博物館に収蔵しようとする動きに着目し、ポピュラー文化を文化遺産化することの困難さを、所有や文化の真正性をめぐる議論との関係から読み解く理論的研究をおこなってきた。この研究を進めていくうえで、ポピュラー文化を収蔵するミュージアムの来館者は、それまでに受容したポピュラー・メディア作品の記憶をもとに展示を「まなざし」楽しむのだが、こうした「まなざし」はミュージアムではない都市空間や建造物にも向けられ、「観光のまなざし」(J.アーリ)となり、新たなポピュラー文化を生み出していることがわかった。また、この研究では、ポピュラー文化の中で完結し趣味共同体によって担われるテキスト解釈の楽しみが別の文脈に置かれたとき、ナショナリズムや個人的トラウマとの軋轢を起こすことがあることも見えて来た。本研究では、問題をより鮮明にとらえるためにこれら二つの研究を接合し、「負の記憶」がこめられた場所での観光行動に焦点をあて、実証的に考察を進めていく必要性があるとした。

### 2. 研究の目的

本研究の目的は、ドラマやアニメなどのポピュラー・メディア作品の越境的な受容とそれが引き起こす観光行動が、戦争や災害等「負の記憶」を留める場所(「記憶の場」)の観光開発や再イメージ化といかにかわっているのかを調査し、グローバル化時代の集合的記憶の重層的な構築過程を、社会的視点から明らかにすることにある。近年「戦争の記憶とメディア」、「負の遺産の利用」をめぐる問題が関心を集めているが、ポピュラー文化的な側面を分析する研究は多くない。本研究では、メディア作品を観光資源とみなす「コンテンツツーリズム」論を介することで両者を接合し、趣味実践を通じた意味構築が、観光開発と苦難の記憶をいかに結びつけ(る/ない)のかという文化政治を考えることとした。

### 3. 研究の方法

本研究の目的は、集合的な「負の記憶」を表象する場所の観光開発と、ドラマやアニメ、マンガなどのポピュラー・メディア作品によって構成される「観光のまなざし」の出会いが生み出す歴史意識とナショナリズムを考察することである。この目的を遂行するために、以下の調査・分析を行う。

1) 「負の記憶」を表象する場所(植民地建築およびそれを含む都市)を観光地化しようとする地域・行政・政策の実態調査を行う。具

体的には、文書資料・統計資料の収集にもとづくドキュメント調査と、行政担当者および地域住民へのインタビュー調査を行う。特に、韓国・台湾において映画やドラマ、アニメ、マンガ作品の舞台となり「コンテンツツーリズム」の対象となっている場所の観光政策の実態と地域住民の意識のあり方を把握する。また、「負の記憶」を表象する場所を訪れる人々が行う意味創出に関する調査も行い、分析対象となる観光地を訪れる人々が植民地建造物をはじめとする「負の遺産」をいかに「まなざして」いるのかを明らかにする。

2) 植民地建造物および都市表象を用いたポピュラー・メディア「コンテンツ」の分析をおこなう。コンテンツをめぐるオーディエンスの反応を、インターネット掲示板やブログ資料の内容分析、などを通じ「観光のまなざし」を構成する「ポピュラー文化の記憶」を浮かび上がらせる。

3) 1) 2) の調査結果を踏まえた考察と総合的な成果の報告を行う

### 4. 研究成果

1) ポピュラー文化を文化資源とみなして設立されるミュージアム(町並みミュージアムを含む)が、いかに地域活性化の起爆剤として位置づけられているのか、そしてそれがどのような価値をポピュラー文化に付与し、活用しようとしているのか(あるいはできていないのか)について第85回日本社会学会大会(於札幌学院大学)と、石田佐恵子・村田麻里子との共編著『ポピュラー文化ミュージアム』ミネルヴァ書房として報告した。

2) ポピュラー文化を文化資源とみなして設立されるミュージアムのかなかでも特にマンガに特化して設立されるミュージアムの調査結果を、ジュニア向け新書『マンガミュージアムへ行こう』(岩波書店)として発表した。分析視角として、地域への還元とともに、ポピュラー文化への貢献という軸を設定する必要があることを指摘した。

3) 台湾の近代建築の再活用や日本統治時代の演習林あとのリゾート開発、歴史データベース作成と活用状況を調査した結果、非場所的なポピュラー文化がプラットフォームとなり、ローカルなコンテンツや民俗文化を生み出すための活動を支えていることが明らかになった。

4) フランス(アングレーム市)における韓国のポピュラー文化展示の調査結果からは、「歴史」を伝達する手段としてポピュラー・メディアコンテンツが作成されるとき、むしろ歴史的な文脈が当該国家のポピュラー文化の文脈において再解釈されてしまい、異なる受容を生む可能性が明らかになった。

5) 韓国の歴史博物館および記念館の、展示

におけるポピュラー文化コンテンツの利用状況調査の結果、「負の記憶」の継承が誰を対象として想定されているのかがあいまいな中で、ポピュラー文化コンテンツが利用されると、ポピュラー文化において一般化された物語やポピュラー文化の文脈、娯楽性へとそれらの記憶が回収されてしまう可能性があることを指摘した。しかしそのことは、いったんローカル化された「負の記憶」を、より一般的なものとして想起されやすくもする。

日本、韓国、台湾、フランス等、各国・地域における調査を通じて、ポピュラー文化の非場所的な性質が、逆に場所を生み出していくプラットフォームとなるという現象を通じて、それぞれの「観光地化」を目指す主体の経済的利益追求やナショナリズムと、人々の苦難の体験と私的な趣味実践がいかにか「歴史」や「記憶」を形作り継承させていくのか、という力学の一端を明らかにできた。

〔雑誌論文〕(計 6 件)

山中千恵、台湾におけるマンガアーカイブの現状 - 台湾私立図書館ポピュラー文化ミュージアム台北市立図書館中崙分館と国家図書館の事例から、人間学研究、査読有、12、2013、69-74

山中千恵、村田麻里子、伊藤遊、谷川竜一、韓国漫画映像振興院における来館者調査：来館者の物理的・社会文化的・個人的コンテキストをめぐって、人間学研究、査読有、13、2014、47-64

村田麻里子、パスキエ・オレリアン、山中千恵、伊藤遊、アングレーム国際 BD フェスティバル韓国漫画展「枯れない花」にみる場と展示の政治性、関西大学社会学部紀要、46(1)、2014、57-81

山中千恵、伊藤遊、百瀬英樹、ポピュラー文化の観光資源化と伝統の創造 台湾南投溪頭妖怪村を事例として、仁愛大学紀要、査読有、14、2015、39 - 50

山中千恵、「負の記憶」とポピュラー文化 - 巨済島捕虜収容所遺跡公園の事例から、人間学研究、査読有、15、2016、105-110

伊藤遊、山中千恵、台湾「中央研究院」による学習マンガとしての「Creative Comic Collection」シリーズ - 知識を伝達するマンガの政治性認識をめぐって、京都精華大学紀要、49、2016、196-208

〔学会発表〕(計 8 件)

山中千恵、ポピュラー文化ミュージアムと

は何か マンガ関連文化施設の事例から、第85回日本社会学会大会、2012年11月03日～2012、札幌学院大学

伊藤遊、山中千恵、谷川竜一、村田麻里子、マンガミュージアム研究の可能性、日本マンガ学会、2014年6月28日～29日、京都精華大学

山中千恵、マンガと場所の消費 - シルクロードイメージをめぐって、北京日本学研究センター、2015年10月25日、北京日本学研究センター

山中千恵、「記憶の場」としての西大門事務所、獨協大学国際シンポジウム、2015年11月14日、獨協大学

山中千恵、「負の記憶」とリゾート - 済州島4.3平和記念館の観光地化をめぐって、中部人間学会、2015年11月28日、仁愛大学

パスキエ・オレリアン、山中千恵、村田麻里子、伊藤遊、グローバリゼーション下における歴史認識と大衆文化の輸出、国際高麗学会、2015年8月20日、ウイーン大学

山中千恵、「日本マンガ受容」のサブカルチャー化をめぐって 韓国におけるマンガ受容と炎上の事例を手掛かりに、日本マンガ学会、2016年6月25日、東京工芸大学

山中千恵、「負の記憶」と娯楽 - ミリタリーカルチャー・テーマパーク化する韓国・巨済島捕虜収容施設跡を事例として、中部人間学会、2016年11月26日、仁愛大学

〔図書〕(計 2 件)

山中千恵、石田佐恵子、村田麻里子、ミネルヴァ書房、ポピュラー文化ミュージアム、2013、378

山中千恵、伊藤遊、谷川竜一、村田麻里子、マンガミュージアムへ行こう、岩波書店、2014、256

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕  
ホームページ等

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

山中千恵 (YAMANAKA, Chie)  
仁愛大学・人間学部・准教授  
研究者番号：90397779

### (2) 研究分担者

( )

研究者番号：

### (3) 連携研究者

( )

研究者番号：

### (4) 研究協力者

( )